

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	4077900142
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム幸
所在地	福岡県三潴郡大木町大字侍島861 〒830-0412 (電話) 0944-33-1685

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年1月15日	評定確定日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人 常勤	19人 非常勤	人 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての～ 1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000/日 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無(一時金を含む)	○ 有(100,000円) 無	有の場合 償還の有無	○ 有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,000円程度			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	9名	要介護2			1名
要介護3	5名	要介護4			2名
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 84.5歳	最低 74歳	最高 98歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野口医院 横山外科 野田歯科・小児歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の介護に関する目標・目的がはっきりしており、職員は認知症ケアに熱意を持ち、明るく前向きな姿勢で活気があった。開設して1年10ヶ月ほどであるが、書類は整備され、書式は情報の共有しやすいものが使用されており、記録に時間をとられないよう工夫されている。ホーム周囲には自然が豊かに残っており、食堂兼居間の片側はガラス戸が多く、人の往来や景色が見渡せ、ホーム内でも季節の移り変わりを感じることができる。縁の生垣に囲まれた明るい平屋立てのホームの中庭には東屋があり、入居者のくつろぎの場として親しまれている。リビングには、明るく落ち着いた内装やさりげない装飾品が配慮され、入居者が毎日心穏やかに過ごせる空間が作られている。さらに、居室は和風、洋風の選択ができ、個々に合わせた生活が望め、暖かくアットホームな雰囲気開放感のたまたようホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を受けて、全職員で協議を行い、改善できる部分はすぐに改善を行うなどの取組みがある。また、運営推進会議での外部評価について報告がなされるなど、公表に向けて積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティング時に評価項目の内容を全職員で確認しながら検討する取組みがある。今回の評価項目内容の狙いを学習し、前回の評価項目内容との違いを認識することで、職員への気づきを生み出す結果につながっている。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 行政職員、地域住民、家族・本人、ホーム職員の参加により2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、外部評価結果の報告や現状についての報告、ホームへの改善に向けての提案をするなど、質の向上に向けての取組みや検討が行われている。
重点項目 ②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ・説明、家族会や運営推進会議での働きかけ、職員と家族とのかかわり、その都度の電話連絡などにより、家族の要望や希望の表出に努めている。意見や要望に関して、その都度協議し、反映させている。「ホームだより」の発行を通じて暮らしぶり等についての報告は、これから行う予定である。
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) フラダンスや踊りなど、ボランティアの方々の来訪、近隣の方から野菜を頂く等、少しづつ交流の機会が持てるように努めている。今後、運営推進会議等を活用して、地域行事などの地域情報を集め、それらの参加を通じて接点を持つなどの取組みを期待したい。
重点項目 ④	

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになったことを受けての、理念 の再検討まではされていないが、開設当初からの理 念が、地域との関係を重視したものであり、職員は常 に地域とのかかわりを意識しながら業務に携わってい る。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示しており、自然と目に入る工 夫がある。朝礼時に唱和し、毎月のミーティングで理 念に基づいたケア内容について協議されるなど、理 念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	踊りなどのボランティアの来訪や、近隣の方から野 菜をいただくなど、少しずつ地域との交流の機会を持 てるように努めている。		運営推進会議等を活用して、地域行事などの地域 情報を集め、それらの参加を通じて接点をもつなど の取組みを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	職員全員で自己評価を行い、検討する取組みがあ る。前回の外部評価結果は、いつでも閲覧できる状 態であり、ミーティングや運営推進会議での説明を行 うなどの取組みがある。前回の外部評価を受けて、定 期的に介護計画の見直しを行うなどの改善が顕著に 見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の保健師、地域住民、家族・本人、ホーム職員の参加により2ヶ月毎に開催しており、外部評価の結果や現在の取組み内容等について報告し、改善すべき点について意見をもらうなど、質の向上に向けての取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議への参加の声をかける等の取組みはあるものの、参加までには至っていない。		地域包括支援センターや行政への情報提供、事業所見学会、行事開催の提案を行う等の接する機会を設け、交流を通じて、連携が取れる関係作りへの積極的な取組みを期待します。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業及び成年後見制度活用の事例はなく、また、制度に関して職員への勉強会や家族への説明等の働きかけは、これからの課題である。		運営推進会議や家族会等を利用して情報提供の機会を設け、地域や利用者に活用していただけるような支援を期待します。同時に職員全員が支援に必要な知識を持ち、必要な時に対応できるような体制への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や家族会等で入居者の様子や暮らしぶりを報告している。毎月の「たより」にて現在の状況等についての報告は、これから行う予定である。		ホームだよりを利用して入居者の状況、ホームからのお知らせを行うなどの取組みを期待します。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、運営推進会議時や家族会等を利用した意見の聴取が行われ、意見や要望に関しては、その都度、家族と話し合うなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動等はなく、馴染みの関係が継続されている。新しい職員の採用時には、馴染みの職員が主に関わるようにし、管理者が見守りながら指導にあたるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限は、何ら行われていない。調理やレクリエーションなど職員一人ひとりの能力を評価し、やりがいを持って勤務していけるように支援している。また、資格取得を目指す職員に対しては、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時等に、尊厳についてなど認知症高齢者への対応等の取り組みはあるが、広く職員の人権意識を喚起するような勉強会や研修などへの取り組みは、これからの課題である。		認知症の方のケアをする職員の基本的資質として、人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味においても、行政等で行われる研修や講話への参加、出前講座の利用など、積極的な取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会等の参加や資格取得のための研修参加の希望があれば、勤務を調整する等の支援がある。研修案内の提示、各職員の経験年数やスキルに応じた参加への機会の確保などは、これからの課題である。		各種研修会についての情報収集や研修案内の提示、外部研修への参加機会の確保等、質の向上に向けての取り組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域支部会での管理者レベルでの情報支援や交流は行われているものの、職員間レベルでの相互交流などは、これから行う予定である。		行政や他の事業所との職員同士の情報交換や相互見学、体験交換などを通じてサービスの質の向上への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による入居前入居者の自宅訪問やホーム見学、体験入居などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する仕組みがある。新しい入居者には、常時職員が付き添えるように配慮し、入居者の不安を軽減し徐々に馴染めるような工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえや洗濯物の取り込むタイミングなどを教えてもらうなど、日常のかかわりの中で学び、共に支えあう関係作りへの仕組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時等に家族の思いや希望の把握に努めている。また、日常のかかわりの中から入居者の動作や表情等から思いや意向を汲み取り、ミーティングにて職員全体で協議・検討を行っている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時の面談や日常のかかわりの中から入居者・家族の希望や意向の把握に努め介護計画に反映させている。サービス担当者会議やミーティングにて職員全体で協議・検討を行うなどの仕組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	6ヶ月毎の定期的な見直しを行い、毎 月のモニタリング、ケアプランチェッ ク等で心身状況の変化に応じて随時 の見直しも行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	かかりつけ医への通院介助や入居 者の入院時に家族に代わって着替 えを届けるなど、入居者一人ひと りの状況や希望に対して柔軟に 対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	契約時にかかりつけ医の希望 があるかどうか把握している。希 望がある場合は、原則、家族で 対応してもらおうが、家族が 対応できない場合は、職員で 対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	契約時に緊急時や重度化に 対する方針と事業所として 最大可能なケアについて説 明を行い、本人、家族の意 向について話し合いを行 いながら確認し、主治医、 職員を交えて方針を共有 している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーが損なわれないよう言葉遣い や接し方など、ミーティング時やその都度の指導を通 じて、対応の徹底が図られている。また、入居者の視 線に合わせてゆっくりと丁寧な声かけや対応がなされ ており、入居者が和やかな雰囲気でも過ごすなど、プ ライバシーに配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮し、日々の過 ごし方、食事のタイミングや食事の取り方、居室やリ ビングでの過ごし方など、その日その時の入居者の ペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	入居者と職員と一緒に食事を取り、ゆったりと和や かに食事ができる雰囲気であった。入居者が箸を並 べたり、皿洗いをするなど、入居者一人ひとりの状 況によって、できることに携わっていただくような対応 が見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	週6回入浴できるように支援しており、入浴時間も午 前10時～午後4時ごろまでと対応時間も長く、入浴 の長さや湯温など、本人の好みに添うように支援して いる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	料理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、皿洗いなど入居 者間において自然に役割ができており、職員はその 役割を尊重して支援を行い、感謝の言葉を伝えている。 。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、川下り、初詣、紅葉見学な ど、月1回以上の入居者全員による行事・外出の支 援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、職員は入居者の様子をよく観 察し、さりげない声かけや見守りを行っている。また、 外出傾向があれば入居者と一緒に職員が外出するな どの支援をしている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回消防署の指導による避難訓練の実施があ る。非常時は、近隣居住の消防署職員の方の協力が 得られる体制がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居者ごとに毎食の食事摂取量を記録している。水 分摂取量が少ない入居者には、水分摂取を勧めるな どの対応がある。献立は入居者と相談して週ごとに作 成し、管理者のアドバイスを受け、栄養バランスを考 えながら支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は段差もなく、安全に移動できるつくりと なっている。入居者全員で外出した際のスナップや季 節感を取り入れた装飾品などがほど良く飾られてい る。リビングはほど良く採光され、ソファーや椅子を配 置し、入居者がゆっくりとくつろいでいる光景が見られ た。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたシルバーカー(押し車)や品物、 仏具などを持ってきて、本人・家族と相談して配置を 決めている。本人・家族の希望があれば畳を敷いたり と本人が安全で居心地良く過ごすための工夫があ る。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号